



企画展「浅間山の災害と減災」の開催	P-1
令和元年度秋期教養講座の開催	P-2
特別展示「東平遺跡」出土物の展示	P-2
令和元年度「十五夜お月見の会」開催	P-3
NHKのプラタモリが観音堂にやってきた	P-3
連載(2) 嬬恋村の文化財「享祿の経筒」	P-4
今後の予定	P-4
お知らせ	P-4

冠雪の浅間山

編集 嬬恋郷土資料館友の会 2019年12月発行 第30号

嬬恋郷土資料館 友の会だより

嬬恋郷土資料館「友の会」（唐沢忠夫会長）では、平成31年から令和元年となりました本年も様々なイベントを企画、活動を繰り広げてまいりました。今回の「友の会だより」第30号では、令和元年下半期のイベントや活動の様様をダイジェストとしてご紹介いたします。

企画展「浅間山の災害と減災」が開催されました



令和元年7月1日(月)より8月31日(土)まで企画展「浅間山の災害と減災」が特別展示室で開催されました。



テーマとして基本に帰るをコンセプトに浅間山の形成、天明3年浅間山大噴火による災害についてパネルにして展示すると共に、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所より全面協力いただき、平成24年度から着手している「火山噴火緊急減災対策」砂防事業について、来館者にわかりやすく展示解説を実施しました。



多くの方々に来館いただきました。

令和元年度秋期教養講座2講座が開催されました



秋期教養講座2講座には、合計37名の方々に聴講いただきました。

・10月19日(土) 「防災福祉コミュニティ村づくり」ー歴史・終活・介護ー

講師 群馬医療福祉大学講師・武蔵野大学名誉教授 川村匡由氏

天明3年(1783年)浅間山大噴火によって埋没した村の生存者が、自助互助、名主の共助、藩や幕府の公助によって生活再建後、日本一の高原キャベツ村として発展した経緯、および地方の防災福祉コミュニティの形成を紹介すると共に高齢化が進む孀恋村の正しい老活・終活・介護についてのお話をいただきました。



・10月26日(土) 「『葛咲くや』の波郷句碑に触れつつ俳句の魅力を語る」

講師 ホトギス同人 中杉隆世氏

資料館の横に詩碑が建立されています石田波郷の俳人としての魅力を知るとともに、浅間山を題材に詠まれた俳句をたくさん紹介していただきました。



特別展示「東平遺跡」出土物の展示

郷土資料館特別展示室で、孀恋村東部に位置する、今井「東平遺跡」出土の遺物の展示・解説を行っています。

大小2個の「黒色磨研注口土器」は、縄文時代、今からおよそ3,500年前に作られたと推定されます。墓とみられる配石遺構下の穴の底から発見されたもので、副葬品として埋められたものと考えられます。全国的にも貴重なもので、群馬県指定の重要文化財です。

赤色塗彩土器も同じく「東平遺跡」の捨て場とされる遺構の下層から発見されたもので、口縁部にはベンガラ(赤色酸化鉄)で塗彩されており、口辺部外側には文様が3つの小区画を1単位として3個連ねて描かれています。聖なる土器として祝言などの慶事、祭儀などに使われていたものと推定されます。また、六角形に鉄平石を敷き詰めた縄文住居跡は3,500年ほど前のもので、特異なものとされています。この機会にぜひご覧ください。



今から約3,500年前の黒色磨研注口土器



今から約4,500年前の赤色塗彩土器



今井東平遺跡
珍しい六角形の敷石住宅跡

令和元年度「十五夜お月見の会」が開かれました



9月13日（金）午後7時より郷土資料館3階展望室で恒例の「十五夜お月見の会」が開かれました。

50名の方々のご参加をいただきました。

- ・ミニコンサート オカリナ演奏 ホンヤミカコさん
- ・昔語り 藤原英三郎さん
- ・十五夜茶会 桑原ふみ子先生
- ・講和 松島榮治名誉館長
- ・童謡を歌いましょう 藪田かね子さん

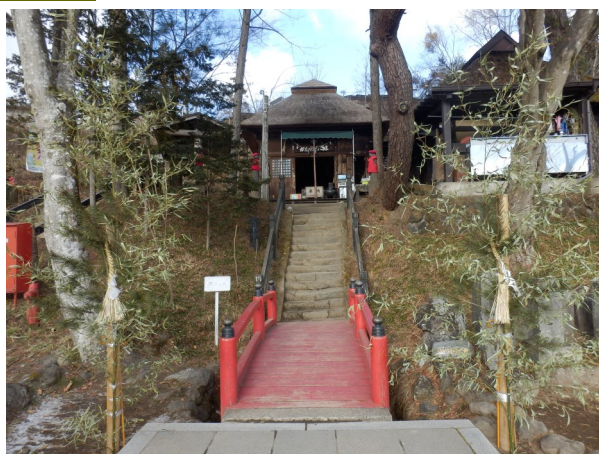
皆さんで楽しみました。



NHKの「ブラタモリ」が観音堂にやってきました

NHKの人気番組「ブラタモリ」が「浅間山～江戸時代の大噴火！衝撃の一日に何があった？～」と題して浅間山麓にやってきました。放映は10月5日（土）、天明3年の噴火・ラスト1日に起きた謎の出来事の数々をタモリさんがブラブラ歩いて解き明かしました。

溶岩・巨石・落とし穴！不思議なものが続々登場、「日本のポンペイ」鎌原の悲劇の痕跡である鎌原観音堂を訪ねました。そして、衝撃の噴火が最後にもたらしたもの、溶岩流の熱で温泉になった「鎌原用水」に驚きのひとことでした。



連載(2) 孺恋村の文化財「享禄の経筒」村指定重要文化財



明治44年、孺恋村三原字上ノ山の畑地で浅間石により作られた筒型の保護容器に納められた経筒が発見されました。経筒は高さ約10.5cm、直径約4.5cmの銅板製メッキの円筒型、底は平たく、蓋は無紐の被蓋式盛蓋(かぶせふたしきもりぶた)。

筒身には、「十羅刹女 越前州平泉寺 奉納大乘妙典六十六部聖 三十番神 享禄三天今日日 弘朝之」

の文字が刻まれているので「享禄の経筒」(享禄三年は1530年)と呼ばれています。この年に越前の国からやってきた白山修験の聖が、三原に勢力を張った武将の依頼で現世利益・追善供養のため法華経を書写して経筒に収め、経塚を構築したのではないかと考えられています。孺恋村での白山修験道信仰の盛況ぶりをうかがわせる貴重な資料となっています。長野原の応桑にある常林寺に大切に保管されています。

今後の予定

- ・令和元年度「孺恋学」講座予定： 来年2月から3月、土曜日に令和元年度「孺恋学」講座を開講いたします。皆様方の参加をお待ちいたしております。
- ・友の会年次総会の予定： 来年3月末に開催予定となっています。
- ・「ボランティアガイド養成講座」の予定： 来年4月に開催を予定しております。
- ・郷土資料館のリニューアル計画： 来年3月末までに館内のリニューアルを実施する予定です。ジオパークとの交流拠点整備事業としての位置付ですが、資料館としての基本コンセプトを踏まえ、最初のリニューアル案の提出があります。その内容について友の会、ガイド会の皆様に意見をいただき修正し進める予定ですのでご協力をお願い致します。

お知らせ

・郷土資料館北側、地域交流センター隣に、食事処「水車」が11月7日からオープンしました。

営業時間：午前11時30分から午後3時00分

定休日：水曜日



編集担当より

本年も皆様方のご協力により無事「友の会たより」の発行ができましたこと厚く御礼申し上げます。また、先の台風19号による災害で被害にあわれました方々に心からお見舞い申し上げます。